

25人が先端医療の研究成果発信 当院で第2回日独合同シンポ

医療機器関連産業分野で連携している福島県と独ノルトライン・ウエストフアーレン州（NRW）の合同シンポジウムは12月2日（土）、郡山市の総合南東北病院NABEホールで開かれ、国内外の医療関係者らが先端医療の現状報告や研究成果を発表しました。

医療協定を締結している同病院とエッセン大学医学部の主催。昨年、独エッセン市で開催して以来2回目。今回は「理工学技術から先端医療を求めて」がテーマで日本、独、台湾の研究者ははじめ県内の医療関連産業関係者ら約100人が参加しました。



開会式で歓迎の言葉を述べる渡邊理事長

開会式で瀬戸皖一南東北グループ顧問とエッセン大学のヴォルフガング・ザウアーヴァイン教授があいさつ。品川萬里郡山市長、トーマス・クーヘンエッセン市長、飯塚俊二県商工労働部長、渡邊一夫総合南東北病院理事長が歓迎の言葉を述べました。

この後、日本大工学部の酒谷薫教授が「深層学習法による認知症の診断」、台北医学大学のウザマ・イクベル教授が「ビッグデータを保健・医療にどう利用するか」と題し発表したのをはじめ日・独・台湾の医師や研究者ら25人が先端医療について報告しました。



合同シンポで認知症の診断について発表する酒谷教授

当院が2度目のGP環境準大賞 日本印刷産業連合会から受賞

日本印刷産業連合会の2017グリーンプリンティング認定制度表彰式は、11月20日（月）午後3時から東京・神田の学士会館で行われ、総合南東北病院などを運営する脳神経疾患研究所（渡邊一夫理事長）が2年ぶり2度目のGP環境準大賞を受賞しました。

GP環境大賞は、日印産連が環境に配慮した印刷製品普及を目指し一昨年春に創設。3回目の今年は紙やイ



進大賞を受賞した当院代表の菅原局長（右から3人目）

ンクなど環境に優しい資材使用のGP認定工場で印刷、GPマーク表示の印刷物の発注主約800社を対象に審査した結果、大賞にタカラトミー、東武鉄道、武蔵境自動車教習

所の3団体、準大賞に当研究所はじめジェイ・オール東日本企画、生長の家、日本自動車連盟、丸井グループ、レインボー薬品の6団体が選ばれました。

表彰式は第1回「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト表彰式と合わせて行われ、山田雅義日印産連会長から賞状と記念の盾が贈られました。当財団から菅原征彦報道情報局長と辻野歩美広報担当が出席し受賞しました。当財団では、一般市民向け広報紙「南東北」「サザンクロス」と院内広報紙「北極星」など年間14万部はじめグループ各施設のパンフレットなど印刷物にGPマークを表示しています。

MOUパートナーが初の交流会議 日・中・独・台湾代表が情報交換へ

（一財）脳神経疾患研究所など南東北グループと医療協定を結んでいる海外の病院や大学関係者を集めた「第1回パートナーシップミーティング」が12月1日（金）、郡山市の南東北BNC T研究センターで開かれ、交流を深めました。

当グループは医療の進展を目指し中国、台湾、ドイツ、ロシアなど9か国・地域の病

院や大学など12医療機関と協定を締結しています。これら機関が一堂に会し情報交換を密にするため日独合同シンポに併せ初めて開催しました。

初会合にはエッセン大学医学部、上海浦南病院、台北医学大学、それに総合南東北病院、総合東京病院、新百合ヶ丘総合病院など南東北グループの代表ら12人が出席。渡邊



情報交換し交流を深めた代表ら

一夫同研究所理事長があいさつした後、それぞれの代表が各機関の事業概要や取り組みなどについて報告するとともにBNC T研究センター内に見学、情報を交換しました。